

帝国主義の定義

帝国主義と社会主義の分裂

日和見主義（社会排外主義の形をとった）がヨーロッパの労働運動にたいしてかちとった奇怪な、いまわしい勝利と帝国主義とのあいだには、なにか関連があるだろうか？

これは、今日の社会主義の根本問題である。そして、われわれは、第一に、現代が帝国主義時代であり、いまの戦争が帝国主義戦争であること、第二に、社会排外主義と日和見主義とのあいだには切りはなすことのできない歴史的結びつきがあり、この二つは同一の思想的＝政治的内容をもっていることを、われわれの党文献のうちで十分に明らかにしてきたので、いまやこの根本問題の検討にとりかかることができるし、またとりかからなければならぬ。

まず、帝国主義のできるだけ正確で完全な定義からはじめなければならない。帝国主義とは、資本主義の特殊な歴史的段階である。この特殊性は三とおりである。すなわち、帝国主義とは、(一) 独占資本主義、(二) 寄生的な、または腐敗しつつある資本主義、(三) 死滅しつつある資本主義、である。独占が自由競争にとってかわったことが、帝国主義の根本的な経済的特徴であり、その**本質**である。独占主義は、五つの主要な形態をとって現われる。(一) カルテル、シンジケート、トラスト。生産の集中は、これらの独占的な資本家団体を生み出すほどの程度に達したのである。(二) 大銀行の独占的地位。三つないし五つの巨大銀行が、アメリカ、フランス、ドイツの経済生活全体を支配している。(三) トラストと金融寡頭制（金融資本とは銀行資本と融合した独占的産業資本である）とによる**原料資源の占取**。(四) 国際的カルテルによる世界の（経済的）分割が**はじまっている**。世界市場**全体**を支配し、「むつまじく」それを分けあっている——戦争がそれを**再分割**するときまで——このような国際的カルテルの数は、すでに**100**をこえている！ 非独占的な資本主義のもとでの商品輸出と区別される、とりわけ特徴的な現象としての資本の輸出は、世界の経済的および政治的＝地域的な分割と密接にむすびついている。(五) 世界の地域的分割（植民地）は**終了した**。

アメリカとヨーロッパにおける、ついでまたアジアにおける資本主義の最高の段階としての帝国主義は、1898～1914年ごろまでに完全に形づくられた。スペイン＝アメリカ戦争（1898年）、イギリス＝ボア戦争（1899～1902年）、日露戦争（1904～1905年）、1900年のヨーロッパの経済恐慌——これらが、世界史の新しい時代の主要な歴史的道標である。

帝国主義が寄生的な、または腐敗しつつある資本主義であることは、まず第一に、生産手段の私的所有のもとでのあらゆる独占の特徴である腐敗の傾向に現れている。共和主義的＝民主主義的な帝国主義的ブルジョアジーと、君主主義的＝反動的な帝国主義的ブルジョアジーとの差異は、まさに、両者が生きながら腐敗しつつあるために、消失しつつある（といっても、個々の産業部門、個々の国、個々の時期に、資本主義が驚くほど急速に発展することがないというのではない）。第二に、資本主義の腐敗は、**金利生活者**、すなわち「利札切り」で生活する資本家の膨大な層が作りだされていることに現れている。四つの先進的な帝国主義国、イギリス、北アメリカ、フランス、ドイツでは、有価証券の形をとった資本の額は、それぞれ**1000億フランから1500億フラン**にのぼる。これは、一国あたり年所得が、**50億～80億フラン**をくだらないことを意味する。第三に、資本輸出は

自乗^マされた寄生性である。第四に、「金融資本は支配をめざすものであって、自由をめざすものではない」。全線にわたる政治的反動は、帝国主義の特性である。収賄、大じかけな買収、各種の疑獄。第五に、領土併合と切りはなせないようにむすびついた被抑圧民族の搾取、とりわけ、ひとにぎりの「大」国による植民地の搾取は、「文明」世界を、ますます、幾億人の非文明民族の肉体にくっついた寄生虫へと変えていく。ローマのプロレタリアは社会の費用で生活していたが、今日の社会は、近代プロレタリアの費用で生活している、というシスモンディの深遠な評言を、マルクスはとくに強調した〔第五巻、423 ページ〕。だが、帝国主義はこの事態をいくらか変えている。帝国主義的大国のプロレタリアートの特権的な層は、いくぶんは、幾億人の非文明民族の費用で生活している。

帝国主義が死滅しつつある資本主義、社会主義へ移行しつつある資本主義であるという理由は、明らかである。資本主義から生じる独占は、すでに資本主義の死滅であり、資本主義から社会主義への移行の始まりである。帝国主義による労働の大がかりな社会化（弁護論者のブルジョア経済学者が「絡み合い」と呼んでいるもの）も、やはりこのことを意味する。

帝国主義のこのような定義を述べることによって、われわれは、K・カウツキーと完全に対立する。カウツキーは、帝国主義を「資本主義の一段階」と見ることをこぼんで、帝国主義とは金融資本の「このんで取る」政策であり、「農業」国を併合しようとする「工業」国の志向である、という定義をあたえている。このカウツキーの定義は理論的には徹頭徹尾欺瞞である。帝国主義の特殊性は、まさに産業資本ではなくて、金融資本の支配にあり、まさに農業国だけではなくて、あらゆる国を併合しようとする志向にある。カウツキーは、帝国主義の政治を帝国主義の経済から切りはなし、政治における独占主義を経済における独占主義から切りはなすことによって、「軍備撤廃」とか、「超帝国主義」、等々のたわごとのような、その卑俗なブルジョア改良主義への道をならしている。この理論上の虚偽の意味と目的は、まったく、帝国主義のもっとも深刻な諸矛盾をあいまいにし、こうして帝国主義の弁護論者、公然たる社会排外主義者や日和見主義者との「統一」という理論を合理化することにある。

第 23 巻 P112~114 『帝国主義と社会主義の分裂』

1916 年 10 月に執筆

ポイント

帝国主義とは、資本主義の特殊な歴史的段階である。この特殊性は三とおりである。

(一) 独占資本主義＝独占が自由競争にとってかわったことが、帝国主義の根本的な経済的特徴であり、その本質である。独占主義は、五つの主要な形態をとって現われる。

(一) カルテル、シンジケート、トラスト。生産の集中。

(二) 大銀行の独占的地位。三つないし五つの巨大銀行が、アメリカ、フランス、ドイツの経済生活全体を支配している。

(三) トラストと金融寡頭制（金融資本とは銀行資本と融合した独占的産業資本である）による原料資源の占取。

(四) 国際的カルテルによる世界の（経済的）分割がはじまっている。

(五) 世界の地域的分割（植民地）は終了した。

(二) 寄生的な、または腐敗しつつある資本主義。

第一に、生産手段の私的所有のもとでのあらゆる独占の特徴である腐敗の傾向に現れている。

第二に、資本主義の腐敗は、金利生活者、すなわち「利札切り」で生活する資本家の膨大な層が作りだされていることに現れている。

第三に、資本輸出は自乗された寄生性である。

第四に、「金融資本は支配をめざすものであって、自由をめざすものではない」。全線にわたる政治的反動は、帝国主義の特性である。収賄、大じかけな買収、各種の疑獄。

第五に、領土併合と切りはなせないようにむすびついた被抑圧民族の搾取、「文明」世界の、幾億人の非文明民族の肉体にくっついた寄生虫化。

(三) 死滅しつつある資本主義、社会主義へ移行しつつある資本主義。

独占と労働の大がかりな社会化は、資本主義から社会主義への移行しつつある資本主義である。